

東野小学校おかしはくらん会をひらこう —「B鑑賞(1)」—

～世界で一つだけのお菓子をつくって、お菓子博覧会を楽しもう～

広島市立東野小学校 森口 志保子

1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 9:55～10:40 2年1組教室

2 学年・組 第2学年1組(男子 15名 女子 15名 計30名)

3 題材について

- 本学級の児童は全体的に図画工作科の時間を楽しみにしている児童が多い。しかし、思いを絵や立体に表すことに抵抗を感じている児童が数名いる。発想や構想の能力については、すぐに思い浮かぶ児童と時間がかかる児童の差が大きく、発想に時間がかかる児童の中には、途中で作品に向き合う意欲がなくなる児童もいる。また、表したいものはあるが、形や色、表し方を具体的に考えられずなかなか表現活動に入れない児童もいて支援が必要である。反面、発想が豊かな児童は導入の段階から作品づくりに集中して楽しんで取り組むことができている。技能面については、パスやのりの使い方また、はさみの使い方などが雑で、作品に最後までていねいに取り組む姿勢に乏しい児童が目立っていた。しかし、最近では用具をていねいに使って作品をつくるようになってきつつある。絵の具の使い方については、約束を守って正しく使おうとしている。鑑賞については、学習の途中で友だちの作品を見ながら、「すごい」とか「上手」などの思いを言い合いながら学習に取り組んでいる。しかし、1時間を通しての鑑賞の学習の経験は乏しい。そこで、粘土を使っての「東野小どうぶつえんをつくろう」の学習では、形や表現の面白さに着目させて鑑賞を行った。しかし、鑑賞の言葉が抽象的になってしまい、形や色、表し方の面白さなどの視点から根拠をもって鑑賞していけるように支援をしている段階である。
- 本題材は、来年度広島市で開催される「第26回全国菓子大博覧会・広島」にちなんで、自分がつくりたいお菓子に合わせてカップや段ボール等のさまざまな材料でお菓子をつくり、東野小学校お菓子博覧会を開き、お互いのお菓子のよさを鑑賞し合うものである。お菓子は児童にとって身近なものであり、心躍るものである。体験から感じたことや関心のあることから心豊かに想像を広げて表現できると考えられる。お菓子をつくる活動では材料や好きな形、色を手がかりに試しながら、その活動自体を楽しみ、発想や構想の力を身につけることができると思う。また、表したいものに合わせて、切断や接着、接合を工夫するなど、用具や材料を工夫して使う技能も身に付けることができるようにしたい。表現活動でさまざまな形や色、材料の工夫が期待されるため鑑賞では、形や色、表し方の面白さなどに気づくとともに、それらの視点から自分のイメージを具体的に伝え合うことができると期待する。また、この題材から物事に最後まで丁寧に取り組んでいく姿勢や、物の見方は多様にあるということも学んでほしいと思う。
- 指導に当たっては、「第26回お菓子博覧会・広島」のマスコットキャラクターのかしなりくんとスイーツ姫からの「世界に一つだけの自分のお菓子を考えて、東野小学校のお菓子博覧会をひらいてはどうか」のメッセージを伝え、児童の東野小学校お菓子博覧会を開こうとする意欲が高まるようにする。お菓子づくりの活動では、つくりたいイメージをふくらませてから表現活動に入るようにし、イメージがわからない児童には様々なお菓子を紹介したり材料コーナーを用意したりして発想が膨らむようにしていきたい。また、材料から思い付くイメージについて児童の気持ちを聞いたり、友だちの作品を見にいてもよいことを伝えたりする。技能面においては、思い通りの物を表現するため、材料にあった組み合わせ方や接着、接合、切断などの方法を全体でよく指導してから活動に入りたい。鑑賞においては、お菓子博覧会という楽しい雰囲気の中で自分の作品や友だちの作品を楽しくじっくり鑑賞できる場となるようにしたい。そのために、自分のつくったお菓子に名前を付け、世界に一つだけの自分のお菓子の宣伝の文を形や色、表し方の面白さなどに着目しながら書き、友だちにアピールできるようにする。そして、自分の作品を宣伝し合い、対話を通してお互いの作品を楽しみながら鑑賞できるようにしたい。そして、児童一人一人が形や色、表し方の面白さに着目でき、言葉で表現できるように、造形要素を示したアート言葉カード(ことばの花かご)を用意し手助けとしたい。

4 題材の目標

- 自分だけのお菓子を形や色を工夫しながらつくとともに、話したり聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さに気づくことができる。

5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	①お菓子をつくることに関心をもち、思いのままに取り組もうとしている。 ②自分や友だちの作品を見ることを、思いのままに楽しもうとしている。	お菓子博に向けて、自分が表したいものを思い付いたり、つくりながら新しい形を考えたりしている。	手などの感覚を働かせながら、材料の組み合わせ方や接着、接合、切断を工夫して表している。	自分が感じたことを話したり友だちの話を聞いたりしながら、作品の形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気づいて伝えたり鑑賞カードに書いたりしている。

6 指導と評価の計画（全4時間 本時4 / 4時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第1次 (3時間)	<u>お菓子をつくる</u> ・集めた材料でお菓子をつくる。	アー① (観察) イー① (観察) ウー① (観察) (作品)	<ul style="list-style-type: none"> お菓子をつくることに関心を持ち、思いのまま<u>進んで</u>取り組もうとしている。 お菓子博覧会に向けて、<u>形や色から発想を広げながら</u>自分が表したいものを思い付いたり、つくりながら新しい形を考えたりしている。 表したいものに合わせて、手などの感覚を働かせながら、他の材料との組み合わせ方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の例をいくつか紹介する。 友達の作品や材料コーナーを見に行くように声をかける。 材料と材料の組み合わせ方や切断や接着の方法を具体的に紹介する。
第2次 (本時1時間)	<u>お菓子を鑑賞する</u> ・つくったお菓子を宣伝し合いお互いの作品を鑑賞する。	アー② (観察) エー① (観察)	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の作品を見ることを、思いのままに楽しみ、<u>作品の面白さを味わおうとしている</u>。 自分が感じたことを話したり友だちの話を聞いたりしながら、作品の形や色、表し方の面白さなどに<u>具体的に</u>気づき、伝えたり鑑賞カードに書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の視点となる言葉の花かごを掲示する。 いろいろな考え方や感じ方があることを伝える。

7 本時の目標

感じたことを話したり聞いたりしながら、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気づくことができる。

8 準備物

(指導者) アート言葉カード (ことばの花かご) 鑑賞カード
(児童) 自分の作品

9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準 評価方法
1 前時の学習をふりかえる。 2 本時の学習の内容を知る。	○おかしなりくんとスイーツひめに東野小学校お菓子博覧会の様子を知らせることを思い出させる。	
めあて おかしをせんでんしあい、形や色。イメージからかんじたことをつたえよう		
3 お互いの作品を見合い、気づいたことや感じたことを伝え合う。 ・自分の作品のいいところを友だちに伝える。 ・友だちの作品の中から気に入ったお菓子を見付け、理由もつけて鑑賞カードに記入する。 4 気に入った作品を発表し、全体の場で鑑賞し合う。 ・友だちの作品の気に入ったところを伝える。 ・全体の場で鑑賞し合う。 5 本時のふりかえりをする	○形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどの鑑賞の視点を具体的に示す。 ○理由もつけて伝えるように声をかける。 ★言葉が出てこない児童にはアート言葉カード(ことばの花かご)を示して、感じ方にはいろいろあっていいことを知らせ、自分の思いを伝えられるように声をかける。 ○発言を共感的に受け止める。 ○さまざまならえ方を認め、発言を促す。 ★形や色の視点から感じたことを伝え合えるように具体的な言葉を示す。 ○形や色を鑑賞の視点として、感じたことを伝え合えたかどうかをふり返る。	アー② 工 (観察) (発言) アー② 工 (観察) (発言)

東野小学校おかしはくらん会をひらこう —「B鑑賞(1)」—
～世界で一つだけのお菓子をつくって、お菓子博覧会を楽しもう～
広島市立東野小学校 横岡 千代希

1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 10:10～10:55 2年2組教室

2 学年・組 第2学年2組(男子14名 女子15名 計29名)

3 題材について

- 本学級の児童は、つくったりかいたりする活動そのものを楽しみ、夢中になって取り組む児童が多いが、イメージ通りの表現ができなくなると表現の意欲が薄れてしまう児童や、自信がもてず友だちの活動ばかり気にする児童がいる。発想や構想の能力については、題材のテーマからすぐにイメージを広げて表現活動に入ることができる児童もいるが、表したいものを思い付くまでに時間がかかる児童もいる。また、表したいものはあるが、形や色、表し方を具体的に考えられず、なかなか表現活動に入れない児童もいる。創造的な技能については、パスの扱いが雑であったが、丁寧に取り組む児童が増えてきた。しかし、表したいことに合わせて用具や材料を工夫して使う技能が十分ではない児童もいる。鑑賞に関しては、語彙は限られているが感じたことを積極的に友達に話す児童や、友だちの工夫や自分が気に入った部分を見つけて伝えようとする児童がいる。「東野どうぶつえんをつくろう」の学習では、形や色などに着目させて鑑賞を行ったが、抽象的な言葉での感想が多く、形や色、材質などの視点から理由を加えて感想を出し合うことに難しさを感じている児童がいた。
- 本題材は、来年度広島市で開催される「第26回全国菓子大博覧会・広島」にちなんで、自分がつくりたいお菓子に合わせてカップや段ボール等のさまざまな材料でお菓子をつくり、東野小学校お菓子博覧会を開き、お互いのお菓子のよさを鑑賞し合うものである。お菓子は児童にとって身近なものであり、心躍るものである。体験から感じたことや関心のあることから心豊かに想像を広げて表現できると考えられる。お菓子をつくる活動では材料や好きな形、色を手がかりに試しながら、その活動自体を楽しみ、発想や構想の力を身につけることができると思う。また、表したいものに合わせて、切断や接着、接合を工夫するなど、用具や材料を工夫して使う技能も身に付けることができるようにしたい。表現活動でさまざまな形や色、材料の工夫が期待されるため鑑賞では、形や色、表し方の面白さなどに気づくとともに、それらの視点から自分のイメージを具体的に伝え合うことができると期待する。また、この題材から物事に最後まで丁寧に取り組んでいく姿勢や、物の見方は多様にあるということも学んでほしいと思う。
- 指導に当たっては、「第26回お菓子博覧会・広島」のマスコットキャラクターのかしなりくんとスイーツ姫からの「世界に一つだけの自分のお菓子を考えて、東野小学校のお菓子博覧会を開いてはどうか」のメッセージを伝え、児童の東野小学校お菓子博覧会を開こうとする意欲が高まるようにする。お菓子づくりの活動では、つくりたいお菓子のイメージを膨らませてから表現活動に入るようにし、イメージがわからない児童には様々なお菓子の写真を紹介したり、材料コーナーを用意したりして、発想が膨らむようにする。また、材料から思い付くイメージについて児童の気持ちを聞いたり、友だちの作品を見に行ってもよいことを伝えたりする。表し方を具体的に思い付きにくい児童に対しては、好きな形や色を手掛かりに材料や模様を選ぶように声をかける。技能面では、思い通りのものを表現するために、材料にあった組み合わせ方や接着、接合、切断の方法などを全体でよく指導した上で活動に入る。鑑賞の活動では、自分のつくったお菓子に名前を付け、造形要素に着目しながら世界に一つだけの自分のお菓子の宣伝の文を書き、友だちにアピールできるようにする。自分の作品の宣伝をし合うことで鑑賞の意欲を高めるとともに、対話を通してお互いの作品を楽しみながら鑑賞できる場にする。学級全体の作品を鑑賞する際には、気に入ったお菓子を選び、選んだ理由を鑑賞カードに記入することで、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに着目できるようにする。児童一人一人が形や色などの視点からイメージを広げて言葉で表現できるように、言葉の出にくい児童には造形要素を示したアート言葉カード(ことばの花かご)を用意し、手助けとしたい。

4 題材の目標

- 自分だけのお菓子を形や色を工夫しながらつくとともに、話したり聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さに気づくことができる。

5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	工鑑賞の能力
題材の評価規準	① お菓子をつくることに関心を持ち、思いのままに取り組もうとしている。 ② 自分や友達の作品を見ることを、思いのままに楽しもうとしている。	お菓子博覧会に向けて、自分が表したいものを思い付いたり、つくりながら新しい形を考えたりしている。	手などの感覚を働かせながら、材料の組み合わせ方や接着、接合、切断を工夫して表している。	自分が感じたことを話したり友だちの話を聞いたりしながら、作品の形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気づき、伝えたり鑑賞カードに書いたりしている。

6 指導と評価の計画（全4時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると判断される状況	努力を要する状況への手立て
第一次 3時間	<u>お菓子をつくる</u> ・集めた材料でお菓子をつくる。	アー① (観察)	・お菓子をつくることに関心を持ち、思いのまま <u>進んで</u> 取り組もうとしている。	・作品例をいくつか紹介する。
		イ (観察) (作品)	・お菓子博覧会に向けて、 <u>形や色から発想を広げながら</u> 自分が表したいものを思い付いたり、つくりながら新しい形を考えたりしている。	・友達の作品や材料コーナーを見に行くように声をかける。
		ウ (観察) (作品)	・表したいものに合わせて、手などの感覚を働かせながら、他の材料との組み合わせ方などを工夫して表している。	・材料の組み合わせや接着、接合、切断の方法を具体的に紹介する。
第二次 1時間 本時	<u>お菓子を鑑賞する</u> ・つくったお菓子を宣伝し合い、互いの作品を鑑賞する。	アー② (観察)	・自分や友達の作品を見ることを、思いのままに楽しみ、 <u>作品の面白さを味わおうとしている</u> 。	・具体的な言葉を示し、形や色の視点から感じたことを伝え合えるようにする。
		工 (観察)	・自分が感じたことを話したり友だちの話を聞いたりしながら、作品の形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに <u>具体的に</u> 気づき、伝えたり鑑賞カードに書いたりしている。	・鑑賞の視点となる言葉の花かごを掲示する。

7 本時の目標

感じたことを話したり聞いたりしながら、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気づくことができる。

8 準備物

(指導者) アート言葉カード (ことばの花かご) 鑑賞カード
 (児童) 自分の作品

9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1 前時の学習をふりかえる。 2 本時の学習の内容を知る。	○かしなりくんとスイーツ姫に東野小学校お菓子博覧会の様子を知らせることを思い出せるように、声をかける。	
めあて おかしをせんでんしあい、形や色、イメージから感じたことをつたえよう。		
3 お互いの作品を見合い、気づいたことや感じたことを伝え合う。 ・自分の作品のいいところを友だちに伝える。 ・友だちの作品の中からお気に入りの作品を見付け、理由も含めて鑑賞カードに記入する。 4 気に入った作品を発表し、全体の場で鑑賞し合う。 ・友だちの作品の気に入ったところを伝える。 ・全体の場で鑑賞し合う。 5 本時のふりかえりをする。	○形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどの鑑賞の視点を具体的に示す。 ○理由もつけて伝えるように声をかける。 ★言葉が出てこない児童にはアート言葉カード（ことばの花かご）を示して、感じ方にはいろいろあってよいことを知らせ、自分の思いを伝えられるように声をかける。 ○発言を共感的に受け止める。 ○様々な捉え方を認め、発言を促す。 ★形や色の視点から感じたことを伝え合えるように、具体的な言葉を示す。 ○形や色を鑑賞の視点として、感じたことを伝え合えたかどうかをふりかえられるように声をかける。	アー② 工 (観察) (発言) アー② 工 (観察) (発言)